

日時：平成26年9月3日（水）18：30～21：00

会場：練馬区役所 本庁舎19階 1902会議室

事務局長挨拶

7月1日から常務理事に就任した。本日は第2回の策定・推進評価委員会。8月8日にシンポジウムがあり、委員長からこれからの日本社会の展望と地域福祉の課題についてお話をいただいた。地域の中で救えない方が出てくる、社協はそういう人を支えていくことが大切だと思った。皆さんに意見をいただきながら第4次計画をまとめていきたい。

1 配布資料確認

2 第3次地域福祉活動計画 シンポジウム報告

- ・開催に先立ち、委員の皆様からたくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。
- ・シンポジウム開催の目的は社会福祉施策の現状や今後の取り組みを知ることと、住民リーダーから活動報告をいただくことで、今後の練馬における地域福祉活動について考える機会とすること。
- ・来場者は159名、区民は109名であった。内訳は町会・商店会や民生児童委員、パワーアップカレッジの卒業生や受講者など。社協が対象として考えていた方々にご来場いただいた。
- ・委員長の基調講演をうけ、副委員長、委員からも話をいただき、豊玉・光が丘の活動報告、また区職員からも取り組みのご報告をいただいた。
- ・来場者アンケートの配布枚数は129枚、回収は97枚。内訳は男性32名、女性65名。年代は10代から80代まで幅広く参加があった。地区についても豊玉・石神井・大泉・光が丘、それぞれの地区からご参加いただいた。
- ・地域の課題にどのくらい関心があるかとの問いに「ある」「少し関心のある」と答えた方がほとんど。シンポジウムについては「参考になった」「少し参考になった」という回答が多かった。
- ・関心度の変化については「かなり高くなった」「やや高くなった」という方が多く、地域の課題の認識と実情報告を、皆さんに聞いていただくことができた。
- ・シンポジウムの内容に関する活動に参加したいという方も多く、今後地域で活かしていきたいかという問いに対しても「活かしたい」「活かす方向で考えている」という方が多かった。
- ・練馬区の情報についての把握については、ある程度把握しているという方が半数近くいた。
- ・今後も研修講演会に参加したいかという問いに関しては「参加したい」という方が多かった。今回のシンポジウムの内容はある程度評価されたと思う。
- ・それぞれの質問項目の中に自由記述の欄があり、いただいた自由記述をカテゴリ分けした。
- ・同じようなカテゴリに分けていった時に「知りたい・学びたいと思ったこと」には、「地域を知るために情報をえたい」「もっと時間をかけて学びたい」など、知りたいというのをひとつまとめた。また右側の「地域の課題として感じていること」には「防犯、防災、緊急時の助け合い」や「孤立化、近所付き合いの希薄化」などがあげられており、課題として感じていることとしてまとめた。そのようにまとめていくうちに「これからの活動」「つながりのある地域をつくるために」の4つに分かれていった。
- ・「知りたい・学びたいと思ったこと」「地域の課題として感じていること」は第4次計画で考えている育ち合いと気づきにつながっていった。「これからの活動」「つながりのある地域をつくるために」は、これからできることととらえ、住民が思っていることと私たちが考えていることが、ずれていないということが見えてきた。
- ・知りたい学びたい地域の課題と感じていること、そこにとどまるのではなく、できることから参加したいとか、つながりのある地域ということは、地域を活性化していかなければいけないという、これからできることまで意見をいただけた。

- ・このシンポジウムには幅広い年齢の方が参加し、参加することで関心度が高まり「活動に参加したい」という回答が7割を超えた。また、地域の代表による発表は身近な活動として、多くの関心や共感が得られたことが読み取れた。アンケート分析を次期計画の策定に向けて活かしていくと同時に、住民等とともに社協が協働していくための契機としたいと思う。
- ・今回のシンポジウムは福祉広報や練馬新聞にもとりあげていただいているので、シンポジウムをやったということにとどまらず、参加していない方にも広く伝わっていくと思う。また、当日東京MXテレビも取材に来ており、8月29日のニュースの時間に委員長がアナウンサーの質問に答える形で10分間特集として放送された。本日この場で放送の様子をご覧いただきたいと思う。

(ビデオ放送)

【質問・意見交換】

- ・委員…シンポジウム終了後に参加者から声をかけられた。光が丘と豊玉、これからどのように活動をしていき、それが地域のつながりにどう影響していくのかと聞かれた。今できたところがゴールではなく、作り上げたものを使いながら関係者の中で留まっているところを、もっと地域の方とも関わりを持っていけたら、というのが2つの地域で共通している。地域福祉コーディネーターは必要だということがシンポジウムで伝わったかどうか。第4次計画以降にどう活かしていくかと思う。
- ・委員長…100人くらいの人で職員も入ってワークショップを行えば、深いところまで話がいくと思うが、一回目の取り組みとしてはこれで良いと思う。
- ・委員…アンケートの居住地で「その他地区」は4分の1となっているが、どういう人がきているのか？
- ・職員…福祉事務所管轄の豊玉・石神井・大泉・光が丘の4圏域で聞いた。自分がどの地域なのか判断が難しい方は「その他地区」に丸をつけたと思う。東社協のホームページにこのシンポジウムを載せたので、遠いところから足を運んでくれた方もいたと思う。
- ・委員…他地区にもPRを行っているのか？ チラシなども渡しているのか？
- ・職員…他地区には渡していない。
- ・職員…今回は地域の方を中心に声をかけさせていただいた。他は区報、練馬区社協ホームページ、東社協ホームページに載せた。
- ・委員…民生委員が少なかった。若い人が多かった印象がある。一般住民の方はどういう所から来ているのか関心はあるが、分析は難しいと思う。
- ・委員…大成功だと思う。昭和33年から35年ごろ核家族化が始まって都市化が進んだ。そして高度成長期を迎えた。それから経済成長がとまってしまった。今は混乱期にあると思う。さあどうしようというポイントでシンポジウムをやった。ひとつのシグナルをあたえたとは感じる。これから少子化についても出てくると思う。共通点があると思う。一次産業は農林水産業。共働きのため、子どもの面倒は同居している祖父母がみていた。だから子どもが育った。今は都市機能の中で、昔のような機能をどう構築していくかというところ。この問題へリンクしていく。
- ・委員長…家族内でできていたことができなくなった。それをどれだけ地域が吸収できるか。上からやれと言われ、やらされるより自分たちのまちらしいことをしていけたらいい。

3. 第4次地域福祉活動計画の策定に向けて

①第4次地域福祉活動計画策定構成案および体系図

- ・第3次計画の計画書は第1章から6章立て。第1章と第2章で作成の趣旨や社協の役割について説明、第3章で第3次計画ではどういうところを目指してやっていくのかが記載されている。第4章では計画をどうすすめるか、第5章で策定委員の皆さんの期待、第6章では資料を記載し、段階的に読み進めて頂き計画内容がわかる構成になっている。

- ・第3次計画をふまえ、第4次計画では少し違う形で構成をさせていただきたいという提案。第4次計画では最初に計画のメインとなる第4次計画の方向性と取り組みを記載したい。
- ・資料裏面の体系図は前回の委員会で提案し了承をいただいたもの。これを第1章の中に肉付けをしながら書いていくことになる。特に視点については何が重要でどういう方向性があるのかその経過をふまえて、小地域福祉活動と人材育成の関連性やコーディネーターの必要性などについてふれたい。
- ・第2章ではどう具体的にすすめていくのか。実際のすすめかた、推進の方法、体制を記載する。地域福祉コーディネーターを配置しての仕組みや、拠点を活かした取り組みについて記載したい。さらに、推進する組織体制や委員会、プロジェクトチームなどについて述べたい。また評価についても記載する予定。
- ・第3章には策定委員の期待をのせたい。
- ・第4章は資料。
- ・その他コラムをのせる。「Coffeeブレイク」では社協の役割、地域福祉活動計画と地域福祉計画の違いなど。「Teaブレイク」では地域の方や利用者の方々が思っていること、「手前味噌」は職員がこの地域福祉活動計画を進めていく中や、日々の業務の中で行っている工夫などをちりばめさせていただき、身近に感じてもらえたらと思っている。全体としては、読みやすく、分かり易くするために写真やイラストを豊富に入れ、50ページくらいにまとめられたらと思っている。

②第4次地域福祉活動計画策定スケジュール

- ・計画策定までのスケジュールをまとめた。9月3日の委員会で示したシンポジウムの報告とスケジュール案、構成案を説明したが、基本的には委員会で計画の途中報告をさせていただきながら、委員の皆さんにも意見をいただき、区の情報も適宜いただきながら作業をすすめていくということになるため、3列の表にまとめた。区の計画については事務局長の方から話をさせていただく。

*練馬区の計画について 事務局長より

「第4次地域福祉活動計画策定までのスケジュール（案）の一番右の「区の計画」について記載していない部分について話をします。区長が4月にかわり、新しいビジョンということで計画策定に取り組んでいる。

それが今年度内完成予定。それとあわせて部門別の計画を整備している。地域福祉計画も同じ状況。福祉のまちづくり計画もあり2つの計画があったが、ひとつにまとめていく考えのよう。ビジョンづくりと並行しておこなっているので少し遅れている。まず、区民の意見を聞こうということで9月に区民懇談会を行う予定。それと同時並行で庁内の検討会を行うようである。地域福祉計画と地域福祉活動計画はリンクしているので、区民懇談会は練馬区社協の両課長が出席する。検討会にもオブザーバー参加の了承はいただいている。区民懇談会が終わった後に、学識経験者を入れた検討会。それが来年の4月から9月にかけて動いていく。それを受けてパブリックコメントなどをやり、議会の意見も聞き、来年の12月策定にむけて取り組んでいくようだ。

地域福祉計画は27年度の12月にでき、27年度からの5年間の運用となる。

- ・区の動きをにらみながら、スケジュールに目を通していただきたい。意見をいただいた後、推進部会で修正をかけながら、肉付けをしていく形で作業をすすめていきたい。
- ・11月に策定委員会のワークショップをいれている。ワークショップの説明は後ほど行う。区の計画の区民懇談会が終わるのが27年2月なので、策定推進委員会を2月に行い、区の懇談会の報告をいただき、活動計画の素案を文章におとしこんでいく作業を行いたい。また、27年4月、6月にも策定推進委員会を開催し、文章におとしこんだものを校正していただきたいと考えている。
- ・区の区民懇談会や検討会などが8月に一区切りするようなので、そこで策定推進委員会を開催し完成に近い形の文章をださせていただきたい。

- ・9月にできる完成イメージで、住民説明会、パブリックコメントを実施。10月の委員会に報告をしたあと、最終修正をして11月の委員会で完成。12月には理事会・評議員会で計画案を提出し計画決定をしたい。
- ・区も平成27年度からの計画になるので、社協も同様に考えたい。年が明けたら計画の実施ということになる。新モデル地区の取り組みをしながら取り組んでいく。

③第4次地域福祉活動計画ワークショップおよび

(仮称)「住民リサーチャー」の設置について

- ・ワークショップとリサーチャーの内容を説明する。ワークショップについてだが、11月をめどに策定委員会で行いたい。目的は第3次の活動計画の中で小地域福祉活動推進を行っているが、それを意識した各部署の取り組みについても共有していくため。
- ・8月に職員でプレワークショップをやった。各部署の取り組みを共有しようというのが目的であった。その取り組みは何故始めたのか、取り組んで気づきがあったか、成果は？ ということの意見をだしあった。例えば施設には地域の方がボランティアに入っているが、職員が日ごろ利用者について気付かなかったことの気づきがあったり、学ぶところがあったと話していた。やっている部署では気づかなかった成果についても他の部署の目線で意見交換をした。
- ・11月は委員の皆さんと職員とで行いたい。職員から取り組み内容を話した後にディスカッションし、我々が気付かなかった部分の考えがいただけるのではないかと思うし、それが第4次計画につながっていくと考えている。
- ・住民リサーチャーについては第4次計画の推進・評価に住民の方に関わっていただいたらどうかと考えている。リサーチャーというと評価のイメージが強いが、我々としては第4次の計画を一緒にやりながら、アドバイスをいただくという役割、地域の活動者を増やしていくということも含めて取り組めたらと思っている。
- ・多種多様な職業、年齢の方に声をかけ、広く一緒に動いたり意見をいただいたりすることができると思う。
- ・方法については、この場でご意見をいただきたい。案としては、2016年の2月くらいに住民リサーチャーの説明を区内で行う。社協の個人会員は約3,000人いるが、会員は社協の応援者であるので会員の集いを行えるのであればインフォメーションを行う。また民協や、理事会評議員会等でも説明させていただき。第4次の計画が少し走り出したところで一緒にやっていると良いと思う。
- ・社協を知っていただくということで「リサーチャーだより」をだしながら、つながりをつけていきつつ動いていけたらと思う。名称も含め役割機能についてご意見をいただきたい。

【質問・意見交換】

- ・委員…ワークショップとは？
- ・職員…テーマを決めた話し合い。
- ・委員…人数はあまり多くない。
- ・委員長…人数を分けて行う。おおむね1グループ10名を超えないくらい。多すぎると意見がまとまらない。
- ・委員…27年度からというのと来年度からということだが、完成するのは27年12月。でも計画年度は27年度？ 年度のはじめは計画無しという考え方なのか？ 区も同じなのか？
- ・事務局長…区の計画とあわせるので、同じである。
- ・委員…ワークショップはいいと思うが、話し合いを行ったら、すぐに実行に移すこと。シンポジウムは発表した人が皆喜んだ。自分たちのやっていることが評価をされている、ということが大勢の前で確認された。この前のシンポジウムは良かった。生き活きとしていた。行動に移せばみえてくる。だからワークショップはほどほどにして、次に進んでいく必要があると思う。
- ・委員長…行政の計画は年度ごと。社協はこだわらないのであれば、27年度途中からやってもいいと思う。どんどん始めてもいいという気がする。

- ・委員…区の住民懇談会は誰が出てもいい？
- ・区職員…福祉のまちづくりと地域福祉計画を統合するため、今まで策定に関わった人たちに関わってもらいどうしたらいいか意見をいただくという場になる。オープンにはならない。26年度は住民の要望を把握する期間でアンケートを行う。27年度は計画をつくるというイメージ。2つの計画はもともと別の係で作っていた。福祉のまちづくりは障害者を対象にした計画だった。いま組織改正があり、福祉経営課で両方の計画を担当している。理念が似ているということで統合させ、簡素化させていく運びになってきている。区長が替わり、区の計画の下に個別の分野別の計画がつくようになった。他の計画に載っている事業も盛り込んだりして、内容が大きくなってきているが、なるべく簡素化をしていく予定。
- ・委員…練馬区は住宅地域だから、千代田区などとは違う。人口が増えてきていて、子育てにはいい地域。より生産的、機能的なものを社協が一步すすめて、受け身ではなく、子どもを育てていくことに力をいれていくことはできないのか。
- ・委員長…ファミリーサポートなどやっている地域もある。有償で子どもを預かる所。
- ・委員…子どもの分野は絶妙なタイミング。子育てというニーズが社会にある。
- ・委員…第3次計画を作るときに、もっと子育てに力をいれてほしいという意見があった。子どもを意識した取り組みは、その提起を受け今計画の中でも取り組みをすすめていると思っている。形としては見えにくくなっている。じわじわ進んできていると思う。
- ・委員…子育ては無償でできていた時代があった。
- ・職員…モデル地区の中でも安心して子どもが育てられるまちということで、豊玉も子育ての関係者が集まって議論を始めている。光が丘も育てあう育ちあうまちづくりということで取り組んでいる。高齢者が子育てなど社会的に役割をもつと元気になる。そういう子育ての部分もまちづくりということで進めていけたらと思う。
- ・委員…無償でお願いし、名誉をあたえること。評価されるということを伝える。褒められると嬉しい。
- ・委員長…比較的元気なお年寄りで、そういう活動をしてくださる方がいれば、そういう方も元気になる。
- ・委員…町会よりもネームバリューがある社協がやると良いのでは。
- ・委員…名誉というとニュアンスはいろいろあるが、地域で活動している方を「気づいて認めて感謝する」ことが大事ではないか。社協が子育て支援の分野に進出するという事は、具体的なイメージとしては見当はつかない。社協らしい子育て支援を考えてほしい。今、シングル家庭が多くなってきて、子どもの貧困が大きな社会問題になっていて、核家族の中でも2人(家族)と単位が小さくなっている。一方で空き家も問題になっている。私の住む地域で近所では10世帯中4世帯が空き家。ずっと戸が閉まっているので、いるのかいないのかわからない。空き家を活用することは区としても考えていると聞いたが、(まちづくりという分野になってしまうが)、子育てがあって、空き家があって、高齢者の孤立化があるととなると、グループホームの考え方も検討してみたらどうか。まちづくりと福祉は関連している。
- ・副委員長…制度の網から洩れてしまっている貧困とか、そういう問題を救い上げるのは社協の課題かなと思う。空き家があって動ける高齢者がいて、子育てに困っている人がいてというのは、本当に何かできそうだと思う。
- ・委員…時代のニーズにもあっているし、わかりやすい。特区をとったらどうか。
- ・委員長…高島平では学生も関わってきている。去年の12月くらいに建物調査をやった。練馬区は空き家率は10数パーセント。千代田区は20数パーセント。空き家を正式な福祉施設として使おうとすると、設置基準に関しての細かい法的な手続きが必要になる。廊下の広さや、エレベーターの設置など。特区をとるのはいいアイデア。武蔵野市は遺贈された家を地域の人に貸している。アイデアは色々あると思う。
- ・事務局長…転用の話は、問題意識はあるが、防災や安全を考えると規制が強くなってくる。
- ・委員長…正式にやろうとすると規制がかかる。
- ・委員…区の規制は700～800くらいある。地域には色々交じり合っているのに規制はバラバラ。

- ・委員…ニート、ひきこもりの問題。今までの考え方だと家族の問題は家族で解決するという感じ。人数が多い家族の場合は解決できたかもしれないが、今は家族だけでは解決できないので家族の問題を地域支援として考えてほしい。例えば高齢者や障害者の課題だと理解が得やすいが、ひきこもりになると家族の問題になってしまう。青年期の人たちは家族と住むよりもグループホームの方がよい場合が少なくない。福祉の対象としてのひきこもりもあると思う。グループホームというのもひとつ可能性があると思う。ひきこもりはどこも受け皿がないので、社協で取り組んだらどうか。
- ・委員…地域教育力というのが、皆バラバラなので、そういうのがあるわけではない。そういう機能をどう構築していくか。
- ・委員…ひきこもりの人のグループホームは難しい。能力のあるリーダーがいなくてうまくいかない。
- ・委員長…問題は一人でひきこもっている中高年のほうが大変といえるのかも。若い人は食べ物が入っている。中高年は蓄えを使っている。若い人は家族の中で引きこもっている。どちらも大変な話。
都市部の社協でやっているところはあるのか？
- ・委員…都内の社協全体として子どもは弱い。NPOはある。また、生活困窮者の学習支援にかかわっているところはある。
- ・委員…ひきこもりは結構いる。一步一步気長にやるしかないということで対応している。戸建てで2人から1人になりマンションに引っ越してくる方がいる。他人と関わりたくないと思っている人もいる。自分の生き方は変えられない。そこを優しく優しくつきあっていく。40代で独り身の人も多い。地域活動に引っ張り込もうとして頑張っているが、難しい。
- ・委員…世論がかわらなくて難しい。今までの常識をひっくり返さないといけない。
- ・委員長…関わりをもたなければいけない時期が近付いているということ。
- ・委員…孤立死となると警察に連絡する。警察の中には霊安室があり検死される。その後東京都の葬祭場で埋葬する。福祉事務所も後片付けをやる。本当に大変。
- ・委員…ワークショップとリサーチャーについて。シンポジウムに関心のある人が集まってくると思うので、ワークショップとリサーチャーが別々に動くともったいない。第2回としてうまく交わる形で組みあがっていくと良い。
- ・委員長…会員の集いなど、色々な仕掛けをしていかないといけない。本当はそれが生活圏内で開かれていくと良い。それが地区社協になっていく。
- ・委員…リサーチャーの件だが、中身的にはこういう形で広く地域住民の方の声をあつめ、評価をあわせて推奨していくという、この仕組みが大切。リサーチャーの集め方は難しいと思うが、やりたいという方はもちろんだが、福祉の仕組みは制度的にも利用者の方が発言できる機会が少ない。社協は利用者と繋がっているんで、利用者の声をある程度集約できるというのが強みであると思うし、利用者の声を集めるためにはサポーターも必要だと思うので、そういう仕組みをつくっていくと良いと思うのでこれから考えていってもらいたい。
- ・委員長…きらら、ういんぐ、作業所などあるので、そういう人たちもよい。汲み上げる仕組みをつくるということ。
- ・委員…ワークショップは試験的にやったと思うが、具体的にどうやったのか説明してもらいたいのでここでやった手法が地域に出ていったときにどういうふう活用できるのか、何かヒントになるようなことがあれば教えてもらいたい。
- ・職員…部会員も含めて各部署から職員が参加して2回行った。グループの人数を少なくして話しやすくし、自分たちが地域に向けて行っている活動を、やってみてどうだったか一人ずつ話をした。何故そういう取り組みをしたか、取り組んでみてわかったこと、成果などを順番に発言した。あらためて気づくことや他の部署が取り組んでいることに対して気づくことなどお互いに気づき合うことがあった。取り組みを整理していったら、もっとこういうことができるのではなどということも見えてきた。

- ・委員長…今回のグループワークは広く区民に呼びかける提案にはなっていない。今回は次回の委員会でやりたいという提案。こういうことを重ねていく中で今後はどうするかという意見はでてくるかもしれないが。
- ・職員…その中で第4次計画の着眼点も考えたい。
- ・委員長…部会員と委員以外の職員が、やりたいことを発言すればよい。説得できれば計画にのるかもしれない。
- ・職員…委員の皆さんにも私たちが気づかないところなどご意見やご提案をいただきたい。
- ・委員…評価委員の目から見て発言し、それで気づきがあるかということ。
- ・職員…自分たちがやっていることを話すことで自分たちも整理ができ、視点が違うと色々な意見をもたらえるので、色々な気づきがでてくる。それを第4次につなげたい。
- ・職員…委員会での以前のグループワークの時も自分たちではあたりまえに行ってきたことを、それも小地域の活動ではないかと言われ、そうかと気づくことが多かった。ぜひ今回も色々ご意見をいただきたい。
- ・委員…生活保護の世帯、中学生3年生を相手に土曜日の午後だけ塾のようなことをやっている。法人としては場所貸しなのだが…。単に勉強を教える場所を設けるだけでも難しいが、本人たちの意欲を引き出す何かなければ難しいと感じている。何か地域的な支援がないと本人が意欲的になれない。そういう問題もどこかで考えてもらえたら。
- ・委員…地域での役割があればいいということか？
- ・委員…地域とのかかわりが薄い。生活の基盤がぐらぐらしている。そこをコミットする何かが必要だと思うが、自分の法人だけでは難しい。違う機関が違う役割をもつといいかなと思う。
- ・委員…子どもに学習支援をしている団体がある。どうせ高校にいてもいいことはないと思っている子どもたちに、そこを乗り越えた先輩、信頼できる大人に出会えるということを大事にしているところがある。
- ・委員長…社協の本質的な機能でいうと、そういうことをやっているところを知っているということ。こういうことをやっているところがあるので、紹介することができるのが社協。リクエストはたくさんあったほうがいい。社協はそれを調べ、そういうやりとりのなかで、社協はこういうことなら応えてくれるというのがわかってくる。
- ・副委員長…リサーチャーを集めるイメージは？ワークショップをもっと拡大して住民をいれると考えているのか？
- ・職員…まだ議論できていない。仕組みはこれから考えていく。いいアイデアがあればいただきたい。
- ・委員長…自分が活動できる場面が定期的にある、行ったら新しい人と知り合えるというおまけがついてくるとか。
- ・職員…活動のイメージができると良いということか。
- ・委員長…パワーアップカレッジがあり、期ごとに集まって色々やっていると思うが、そういうところ。
- ・委員…地域福祉という視点を持つ人が増えるということが大事だと思う。こういう人がたくさんいるということは豊かなイメージ。育成ということが必要。こういう人たちが学ぶ機会を提供していかないといけないと思う。
- ・委員長…地域のために活動したいという人は6割くらい、活動している人は2割くらい。のこりの4割の人をその気にさせるのはどうしたらいいかという話。

4. その他

計画策定スケジュールの中で区の予定と合わせるため、計画の期間が少しずれこんでいくということを説明した。期間の関係もあり、委員の任期が来年の3月までとなっているが、この時期に入れ替わるというのは継続性がもてないので、引き続きお願いしたい。

5. まとめ

・副委員長より

シンポジウムも大きな影響があると思うが、だんだん具体的になってきているようで嬉しい。今までの計画は本当に難しいと思っていた。この冊子を読む人がいるのかといつも思っていたので、第4次計画でページを少なくして読みやすくするというのは良かったと思う。それから行動した方がよい、行動することで失敗して色々なことを学べる。そういうことがあると動きがもっと具体的になると思う。シンポジウムをやるだけでわかってくることもあった。動いた方が良いと改めて思った。

6. 次回の日程について

12月2日 火曜日 18時半～

以 上